

令和3年度第2回米原市まち・ひと・しごと創生に関する有識者会議 会議録

会 議 名	令和3年度第2回米原市まち・ひと・しごと創生に関する有識者会議
開 催 日 時	令和4年3月28日（月）13時30分～15時30分
開 催 場 所	米原市役所本庁舎 会議室3B
出席者および 欠席者	<p>【出席者】金井座長、萩原副座長、古澤委員、山崎委員、川瀬委員、馬淵委員、西脇委員、富岡委員、古川委員、中辻委員（10名）</p> <p>【欠席者】川村委員（1名）</p> <p>【事務局】政策推進部 鹿取部長、政策推進課 清水課長、松村課長補佐、富田主事</p>
議 題	<p>(1) 令和4年度まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の取組について</p> <p>(2) 令和4年度地方創生推進交付金活用事業について</p> <p>(3) 今後に向けて</p>
結 論	<p>(1) 令和4年度まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の手段や方法を見直し、市民に確実に情報が行き届くようにされたい。</li> <li>・少子高齢化が進む中で利便性を挙げるための取組を推進されたい。（駅周辺のコンパクトシティ化や集住、バス停に駐輪場を設置すること等）</li> <li>・空家対策では空家バンクへの登録件数を伸ばすための取組を充実されたい。</li> </ul> <p>(2) 令和4年度地方創生推進交付金活用事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「シガリズム」と銘打った取組は面白いが、米原独自の観光コンテンツが欠けている。米原ならではの魅力を体感できる観光ツアー等を構築されたい。</li> </ul> <p>(3) 今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの感染状況や世界情勢等の様々なタイミングで市場が変動することを踏まえ、絶えず市場の流れを敏感に感じながら各種事業に取り組みたい。</li> <li>・今後の教育では、社会で実業（市場調査や商品開発等の生産から販売等に関わる事業）を体験させる中で、自信や生きる力を養うことも重要である。</li> <li>・ホッケーのまちとしてPRするにあたり、観光面や健康面からアプローチしたPRも検討されたい。</li> <li>・被災地域での取組や災害から学んだ経験を地域に対しても共有し、地域の防災力強化に活かされたい。</li> </ul>
審 議 経 過 <small>（主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。）</small>	<p>1 開会</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 令和4年度まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の取組について</p> <p>(2) 令和4年度地方創生推進交付金活用事業について</p>
座長	<p>世の中ではアフターコロナの動きが広まっている。今日は、こうした視点で皆さんと議論をしたい。おそらく患者数は早々減らないと思うが、治療薬等も出始めていて、いずれはインフルエンザと同じような扱いになる可能性が高いと思う。</p>

事務局	<p>冒頭の挨拶にもあったが、本会議は人口減少に戦略的に立ち向かうために策定された総合戦略に基づく各施策に対して委員の皆さんから評価や提言をいただくものであるため、ぜひ忌憚のない意見をお願いしたい。</p> <p>協議事項1および2はともに令和4年度に取り組む事業で関わりがあるため、続けて説明および協議をする。</p> <p>(資料1・2に基づき事務局から説明)</p>
座長	<p>資料2の「シガリズム」は面白い取組だと思う。アフターコロナの流れから、心と体に対して相当の注目が集まっているなかで、コンテンツが欠けていると思う。つまり、「米原に来ると何があるのか」がわかりづらいので、例えば、米原ならではの伝統文化、食などを前面に打ち出してはどうか。「シガリズムとは何か」と問われれば、米原を探検してもらうことで答えが見つかるのではないか。具体例を出せば、伊吹のもぐさ(お灸)も心と体のバランスに寄与するものであるし、上丹生の木彫についても、少しの時間で体験できるので、こうした具体的なものを観光コンテンツとしてモニターツアーを実施し、モデルコースやモデルケースを構築しながら進められると良い。</p> <p>観光は食、文化、歴史と三位一体のような関係にあるので、こうした取組を徐々に進めながら事業の確立を目指してほしいし、これには複数のパターンがあっても良いと思う。</p>
委員	<p>定住促進対策事業について、「どうやって米原市に来てもらうか」がポイントだと思う。新幹線通勤者定期券等補助金は良い政策だと思う。こうした特典がある上で、米原市へ実際に移住するハードルを下げる取組も必要だと思う。現状、経済的に余裕がある人であれば米原市に住む選択肢として住宅の購入や空家バンクの利用等があると思う。しかし、もう少しハードルが下がるように市営住宅を用意したり、他市の様々な支援策も参考に検討してほしい。</p>
座長	<p>子育て支援に対する注目度が高いなか、中学生応援事業は大変面白い取組だと思うが、もう少し情報発信に力を入れられると注目されるのではないか。予算の関係で定員オーバーを懸念される気持ちもわかるが、せっかく事業をするのであれば積極的に発信をしてほしいし、市全体のPRにつながる良いきっかけとして取り組んでもらいたい。</p> <p>サテライトオフィスの開設支援や中学生の部活動支援は、多くの人に喜んでもらえる事業であるし、子育て環境を変えようとしている中で、サテライトオフィス等の更なる支援があれば、働く保護者には非常に喜ばれると思う。もう少し発信の仕方を改善してほしい。</p>

委員	<p>コンテンツの発信手段について、以前に体験宿泊を実施されていたと思うが、事業内容だけでなく、事業を実施するにあたっての苦労話や困難を乗り越えた経験談など、成功体験として作品（映像）を作るよりは、苦労話や努力したこと等の展開の流れを見せるコンテンツがあると良いのではないかと。</p> <p>別府市の温泉PRは、かなり専門的な映像能力を持った人が作っているが、最初は高いレベルを求めなくても良いと思う。コンテンツの厚みというのは、手弁当で作ったようなイベントに真剣に取り組む姿を映像で残し、発信することで生まれると思う。</p>
座長	<p>観光事業に関連して、米原駅西口でのイベントを紹介されていたが、そろそろ東口にシフトできないか。市役所が東口に完成したので、東口の賑わいをどう生み出すのかは今後の東口再開発にかかっていると思う。東口で、ある程度の人が集まる仕掛けを作ることによって、様々な企業からも注目を集められると思う。せつかく市役所も新しくなり、今夏には市役所と駅を直結する通路も完成するので、今後は東口に人を呼び込むことに注力した方が良い。</p>
委員	<p>サテライトオフィスに関する事業は国の取組に準じているのか。</p>
事務局	<p>国の交付金を活用した取組ではあるが、事業の中身としては米原市独自の内容である。</p>
委員	<p>サテライトオフィス事業に関して、東京でもPRをしたようだが、東京ではなく名古屋でPRすべきだと思う。「郊外に住んでいる人が、移動せずに仕事ができる」ということがサテライトオフィスのメリットなので、東京は少し遠すぎると思う。やはり、PRするのであれば名古屋もしくは京都に向けて発信すべきだと思う。</p> <p>農業に関して、中小規模農業者に対する支援として支援金が支給されるのはありがたいことだと思うが、現状はこの要件に該当する人は少ない。農業の後継者確保を目指すのであれば、農業をしてもらう方法を検討すべきだと思う。</p> <p>私自身はイベント等でのPRのほか、今年はジョイイ吹での年間講座として5～7月で3回に分けて「夏野菜の育て方」という講座を開くことになった。講座の対象は、どちらかと言えば定年して畑仕事を始めて間もない人としており、定員10人ほどで開催予定である。こうした講座は観光客向けに実施しても良いのではないかと。今回は地元の人を中心に開催するが、こうした講座も米原観光のコンテンツの一つになり得る。移住を検討してもらうにあたり、家庭菜園ができる庭や畑があるなら、ゼロから一通り最後まで教えることもコンテンツの一つになると思う。家庭菜園の貸出や作業の手助けをしている地域はよくあるが、作り方や作業そのものを教えているところは少ないと思うので、こうした取組も検討して</p>

<p>座長</p>	<p>はどうか。</p> <p>公共交通については、路線バスを新たに再編するのではなく、バス停に駐輪場を作ってほしい。滋賀県内のどのバス停も共通して、バス停には時刻表の案内板が建っているだけであるが、問題は自宅からバス停までどうやって行くかである。お年寄りはそのままで歩いて行くのが大変であるし、自転車置き場がないので自転車等で行くこともできず、結局、バス停まで車での送迎が必要となる。予算の都合もあると思うので息長小学校など主要なバス停だけでも試験的に取り組んでもらいたい。</p> <p>先ほどのサテライトオフィスの件で、距離の問題も確かにあるので近場からPRするのも一つではあるが、最近はワーケーションとしてかなり遠距離を選ばれる事例も増えている。</p> <p>ただ、委員が発言されたように「なぜ米原に行かないといけないのか」ということに対する意味付けがなければならない。ワーケーションとしてどこかへ行きたいと思う人が多いなかで、新幹線停車駅を持つ米原市は結構ポイントが高いと思う。</p> <p>米原に来れば古民家で体験宿泊ができ、Wi-Fi環境も整っているので仕事もできるとなれば、便利さを体感してもらえと思う。しかも利用料金も安ければ、米原を選んでもらえと思う。</p> <p>私もサテライトオフィス等を実際に利用している中で、Wi-Fiの速度や質の確保、5G環境等の速度対応が図られると非常に良い環境になると感じている。ほかにも、プリンタ等の設備も導入し、利便性を上げられると良い。</p> <p>宿泊しながら仕事ができる環境が求められているなか、そこまで設備の整ったところはまだないので、ぜひ検討してほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>子育て世帯に対する支援やサテライトオフィスの誘致等には様々な意義があると思うが、米原駅の東口周辺に相当数の人が住める住環境を作らないと、新幹線の補助や子育て支援をしても、効率的ではないと思う。</p> <p>日経新聞の1月8日の記事には、「集住（集まって住むこと）」が都市計画の面でも重要だという内容が書かれていた。全国的に見ると、滋賀県は集住が一番進んでいるようで、阪神も通勤圏という中で駅周辺に集まってコンパクトシティ化すると財政出動も少なく済むし、様々な分野を充実させることができる。滋賀県で取組が進む理由としては、京阪神の通勤圏である草津市等で人口が増えていることもあるし、記事の中では、東近江市の能登川駅周辺で市が土地を買収して130戸の高層マンション建設を始める、あるいはその周辺の公園整備を進める計画をされていると書かれていた。こうした現状を踏まえると、米原市は広く、わざわざ土地を買わなくても東口に広大な土地があるので、次世代型の高層マンションを中心に自然環境や観光コンテンツ、あるいはサテライトオフィスも入った、</p>

<p>座長</p>	<p>まとまりのある施設を作ってはどうか。分譲であれば区画に限られるし、古民家であれば老朽化等で利用が限られるので、高層マンションを中心としたコンパクトなまちづくりを東口で実現できると東側にも人が集まり、都市部に対しても通勤圏内としてPRできると思う。その上で、新幹線定期券の補助や子育て支援があると若者の需要が高まると思う。せっかくある東口の土地をこうした形で有効利用できると良い。</p> <p>以前に聞いた話では、駅前は相当地価が高いためマンションの建設は難しいとのことだったが、委員が発言されたようにコンパクトシティへの取組は重要なポイントである。</p> <p>どこのエリアでも共通して、だんだん駅の近くへ移り住む傾向があるようだ。例えば、長崎市は坂の上の方に多くの住宅が並んでいたが、今はゴーストタウン化して、多くの人が駅のマンションに移っている。移動や買い物等の利便性を踏まえて集約させていくとともに、郊外をどのように開発していくのかを考えなければならない。人がいなくなった後の対策も必要になるので、その両面で取り組まなければならないが、人がいなくなったところでは古民家として活用する等、方法はいくつかあると思う。</p> <p>東口においても、利便性を高めるための取組をされると良い。米原市には良いコンテンツが多々あるが、集約されていないことが課題である。利便性が高いことを生かして集住を進められたら、非常に良いまちになると思う。京都や名古屋にも近いので、米原に住んでみたいと思う人はたくさんいると思う。</p> <p>心配なのは雪だけである。今冬のような豪雪になると敬遠されてしまうので、雪を楽しみに変えられるような仕組みができると良い。個人的には、以前実施されていた雪合戦が終了してしまったことが非常に残念である。</p>
<p>委員</p>	<p>私は、雪合戦の運営に関わっていた。当初は甲津原地域の発展を目的に実施していたが、高齢化が進み、最終的には運営側の負担を考慮し、終了することとなった。今冬のような雪の量であれば、またどこかで再開してもらいたいと思うが、雪が少ない時にはほかの場所からわざわざ雪を運んで実施したこともあり、運営側の負担が大変大きいので、若い力で復活させてもらえるとありがたい。</p>
<p>座長</p>	<p>ボランティア形式にすると長続きしない傾向がある。経済合理性という言い方になると思うが、ある程度収益が出てビジネスとして成り立たせないと長続きはしない。雪が少ない場合の代替策をどうするか、今は屋外でのバトルが流行しているし、雪がない場合の代案も考えた上で取り組めると良い。特に、甲津原は食についても独特な文化を持っているので、こうした特徴をどのように生かすかがポイントである。場合によっては、東口でイベントのように取り組むのも一つである。</p>

<p>委員</p>	<p>また、今は雪の下で保存した食べ物に注目が集まっている。さつまいもやじゃがいも等も雪の下で保存することが一種のブームになっている。米原市の気候的に実施できるかどうかは問題であるが、雪を活用したブランド化への取組ができると価格も高く設定できる。米を雪の中で保存し、販売されている地域もある。こうした事例を雪を楽しむ手段の一つとして参考にするとともに、雪が少ない場合の代替策も併せて検討してもらえると良い。</p> <p>空家対策推進事業について、金融業界に携わる立場として地元の方の話を聞くと、例えば不動産業者からは、米原市の空家バンクに登録されている件数が少ないため、都会の方から相談を受けた際には、不動産業者のホームページに載せている古民家を紹介しており、そちらへのアクセスが非常に多いと聞いている。</p> <p>地元の方からは、「今は家を使っていないので、売りたい」という相談もあるが、併せて「現状のままで、手直しをすることもなく、費用をかけずに売り出したい」と言われる。市の空家バンクも紹介するが、現状の外観でホームページに載せたとしても、買い手はなかなか現れないだろうから、やはり、少し手直しをしなければならぬのだろうかと悩んでいる。</p> <p>資料には空家バンクの成約数実績が掲載されているが、件数はもう少し伸ばしてもらいたい。件数が伸び悩む要因としては、やはり登録件数が少ないことにあると思う。地元の方からすると、お金をかけて手直しをして、空家バンクに登録するとなった際に修理費を上回る額で売却できれば良いが、費用面でのジレンマがあって空家登録を躊躇されているようだ。</p>
<p>座長</p>	<p>改装すれば確実に売却できるという保証もないので、その判断が難しいところである。</p> <p>良い事例として、埼玉県寄居町では改装業者と協力して改修費用や改修イメージの案をいくつか提示する仕組みを構築されている。家主は改修に関わる工程を具体的にイメージできるので、結果的には成約率が上がっているようだ。実際、現地に行くことは容易ではないが、例えば建築事務所からのアイデアを得ることができれば良いと思う。</p> <p>また、事業承継のマッチングを行っているところもある。例えば、甲津原で高齢化により飲食店を継続できなくなったことを想定した場合、主婦の間では、パン屋やカフェを開きたい人が結構多くいるので、リモートワークができる設備環境や充実した子育て支援があれば需要が見込めると思う。事業の内容にもよるし、農家の事業承継は難しい現状があると思うので、こうした手法で後継者を確保するのも一つだと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>私は観光事業やまちづくりに関わるなかで、今後の担い手不足を心配している。行政で様々な事業に取り組んでいたとしても、その内容を知っている市民がどれ</p>

座長	<p>だけいるのか、おそらく多くの場合は他人事になっていると思う。私自身は、市役所と関わる仕事をしているので、市の事業内容もおおよそ分かるが、現状として市民が置き去りにされている気がする。</p> <p>今、米原市社会福祉協議会のコラボチャレンジという補助金を活用して、空家を利用して事業を開始する人を対象に、空家の改修が終わるまでの期間、共有スペースでシェアキッチン等に取り組めるようなスタートアップの支援を始めようとしている。こうした情報をどれだけの人知っているか、行政側も地域でこうした新しい取組にチャレンジしようとしている人たちのことをどれだけ把握できているのか気になる。</p> <p>市は、市民全体に対してもっと広く情報を伝えるべきだし、新しいことに取り組みたいと考えている市民に必要な支援が行き届くように声掛けを改善すべきだと思う。</p> <p>どうしても把握しきれない部分はあると思うが、いかにして必要な人へ必要な情報を行き渡らせるかが最大の課題だと思う。市役所が門を広げ、市民が気軽に相談できるような仕掛けをつくることによって、ネットワークを広げていけると良い。その上で、誰がどこでどんな事業をしているのか、市内の資産マップのようなものを作れると良いと思う。市内に点在する資産をどのようにして、つまびらかにするか、その仕組みを出来る限りハードルを下げる形で展開できると良い。例えば、相談会のような形で集まる機会を作ると、新たなコンテンツが生まれる機会にもなると思う。</p>
委員	<p>乗合タクシーの料金改定について、運営状況が厳しいため利用料金を上げたいという趣旨なのかと思ったが、新たに割引パスポートを導入するのであれば、結果的に利用料金は安くなるのではないかと。料金を上げるのか下げるのか、どちらが目的なのか。障がいのある人や高齢者等はパスポートの利用によって従来より安い値段で利用できるようだが、その場合にはもっと分かりやすいPRをすべきではないか。</p>
事務局	<p>委員の発言のとおり、高齢者や障がい者は割引パスポートを利用することで、従来よりも安く利用いただけるので、対象の方には丁寧にPRをしていきたい。</p> <p>また、現状として米原近江地域でのタクシー利用は観光客が多いということもあるため、市民に対しては料金改定の負担が少なくなるよう配慮して割引パスポートを導入した。</p>
座長	<p>委員の皆さんから多様な意見が出されたので、少しずつでも改善できるように、取り組まれない。</p> <p>それでは次に協議事項3に進む。まず事務局から説明をお願いします。</p>

事務局	<p>(3) 今後に向けて (資料3に基づき事務局から説明)</p>
座長	<p>皆さんから意見や質問などいかがか。</p> <p>「子どもたちが自分でつかむ自分の未来支援事業」について、私は大学や高校、中学校で子どもたちに教える機会があり、Z世代と言われる現代の子どもたちは相当優秀だと感じている。特に、私たちの世代とは異なる優秀さを備えている。</p> <p>その中で彼らが一番に望んでいることは、実業だと思う。子どもたちは、「学校の勉強が社会の何に役立つのか」を自分たちなりに理解しているようだ。私の授業では、商品開発として地元のお土産を作ってみたり、既存の商品の魅力を磨く案を考えたりすることを課題としている。具体的には、学生にどのような商品があるか実際に市場へ調査に出向かせ、その上で、どのようなものが好まれているのかを教えたり、インターネットを使って検索したりさせている。その際「今自分が学んでいることが将来どのように役立てられるか」イメージが持てるようで、非常に好評である。</p> <p>小中学生は頭が柔らかく、突拍子もないアイデアが出されたりするので、こちらとしても非常に面白い。ここで大事なことは、子どもたちを褒めることである。子どもたちも将来に対する不安感を抱えているなかで、「自分たちも社会できちんと仕事ができる」という感情が生まれ、自分たちで生きていく力を自然と身に付けられると思う。学生たちは、口には出さなくても様々なことを考えている。自分の考えを伝えることできちんと他者から評価されると、次に進めることができ、未来を自分の手でつかんでいけると思う。受験勉強だけが大事な時代ではなくなったので、情操教育的な部分も重要になると思う。</p>
委員	<p>自治会専用サイトの導入は非常に良い取組である。今までは、おそらく紙ベースで様々な情報交換をしてきたと思うが、自治会もようやくICTの恩恵を受けられるようになった。</p> <p>その一方で、申請のやりとりの中では非公開にすべき情報もあると思うので、一般の人に公開すべきものと非公開にすべきものと分けて情報公開のメリハリを付けられると良い。</p> <p>行政が地域の活動を見聞きすることが求められているなかで、こうしたICTツールを持っていることは市にとっても大きなチャンスの時期だと捉え、自治会専用として対象を絞らずに、例えばまちづくり協議会や小学校区、中学校区レベルでもサイトを見られるような仕組みにして、活動履歴を閲覧できるようにすると良い。おそらく、自治会専用サイトというのは、今後、活用の幅を広げていく可能性が十分にあると思う。</p>
座長	<p>ICTの活用を進めるにあたっては、高齢者の方など使いこなせない人がいる</p>



	<p>現状を踏まえ、その方たちへのレクチャーや支援を今後の課題として取り組んでもらいたい。</p>
委員	<p>ホッケーのまち推進事業について、国体に向けた取組としていつもターゲットエイジの育成を挙げられるが、私たちは国体に向けた強化選手の育成を目的にしているわけではない。せっかく伊吹には優れたホッケー競技場もあるので、そこで活躍できる子が増えることを願っているし、国体が終了してからも「ホッケーのまち」としてホッケーに関する事業に対して予算を確保し、継続してほしい。</p>
座長	<p>ホッケーの認知度が未だに低いことは非常に残念である。もっと普及させるには何らかの取組が必要だと思う。</p>
委員	<p>冬季に簡単な形式のユニバーサルホッケーを小学校の体育館で体育の一環として実施できないかとスポーツ推進課から米原市ホッケー協会へ依頼があった。市内の各小学校で取り組むことにより、米原地域や近江地域においてもホッケーの認知度が徐々に高まってきたように思う。</p>
座長	<p>外部に向けた発信は非常に大切だと思う。失礼な言い方になるが、まだマイナースポーツ的な位置にあると思うので、いかにして米原のメジャースポーツにしていくか、多くの人に知ってもらえるかが重要である。なかなか馴染みがないので、おそらくスティックすら持っていない人の方が多いと思う。ちょっとした体験をできる場所があると良い。</p> <p>サッカーにも言えることであるが、フィールドを持っていることは非常に大きな強みである。いきなり大きな場所で開催できなくとも、小さな場所でミニゲームのような形で楽しむことができ、世代を問わず健康増進としても取り組めると良い。バスケットやラグビー等の走り回るスポーツは、知らず知らずの間に体力づくりにつながるのでPRのための魅せ方を工夫できると良い。</p>
委員	<p>観光振興事業について、観光協会がDMOに変わったが、圧倒的に母数が少なく観光事業者が足りない状況である。せっかく米原市で立ち上げたDMOなので、意欲のある人たちを巻き込み、今までは取り組んでいなかった人でもこれから「飲食店をやりたい人」、「特産品開発をしたい人」等も含め、地域全体で観光事業に興味のある人が手を挙げやすい環境になってほしい。</p> <p>ホッケーに関連して言うと、子どもたちがホッケーの遠征で他府県へ行くと、地域によっておもてなしに温度差が生じていることがわかる。米原市の現状としてはおもてなしの力が備わっていないので、おすすめの観光スポットや地域のグルメを聞かれても対応できない。2025年の国民スポーツ大会までに地域のおもてなしの力を備え、「試合がなくてもまた米原に来たい」と思ってもらえるようにし</p>

座長	<p>たい。</p> <p>各地域でDMOの運営が難しいと聞いている。ヒントの一つとして、商品開発を試みたい人は相当数いると思うので、テスト販売できる場を設けられると良い。その際、一定の基準は必要になるが、東京のアンテナショップで販売する機会を提供し、そこである程度利益も出せるようにしながら売れる仕掛けを作れると良い。買い取りができずに、損をしてしまう可能性もあると思うが、トライできる環境があると良いと思う。特に、アンテナショップは比較的そういった試験的な取組を実施しやすいし、新幹線での定期販売なども一つの手段だと思う。</p> <p>また、先程の意見にあったように学生の合宿も観光の一つと言えると思う。例えば、日本中のホッケーチームが学校単位で米原へ合宿に訪れ、市内で宿泊もでき、バーベキューなど楽しみながら食事をできるようなおもてなしの仕掛けができると良い。コロナの感染状況にもよるが、そろそろ合宿も復活する頃だと思う。「ホッケーの合宿地と言えば米原」と言われるようになって良い。おそらく宿泊施設が一番の課題になると思うが、会館や学校等を宿泊所として活用するのも手法の一つだと思う。食事も甲津原など地域の方に協力してもらい、地元ならではの料理を準備してはどうか。米原のホッケーチームは非常に強いので、合宿に訪れたチームとゲームができれば、両チームにとって非常に良い練習になると思う。何か一つでも実現できると、そこからさらに新たな可能性が生まれると思う。</p>
委員	<p>補助金やサテライトオフィス等、様々な事業を計画しているのだから、もっと広報に力を入れるべきだと思う。市民に知ってもらい、活用してもらわなければ意味がない。米原市のSNS等はまだもう少し稼働した方が良い。</p>
座長	<p>広報担当との調整が必要になると思うが、ニュースリリースを出してはどうか。ネットニュースに載せるというPR手法もある。有償のものもあれば、無償で年間何本も載せられるものもある。フォーマットを作り、見せたいものについてきちんとPRすべきだと思う。ネットニュースに載ると場合によってはメディアに取り上げられることもある。例えば、PRタイムズが一番影響力が強いと言われており、取り上げられる頻度も高い。そこからネットニュースに波及しているし、テレビ業界も注目しているので、新たな補助金や子育て支援の取組を載せられると良い。</p> <p>内部への発信と外部への発信と両面あるが、発信する習慣をつけることが重要である。記者クラブを活用するのも良いが、どうしても内部への発信に留まるので、外部に向けた発信を強化するにはネットニュースに載せられるような形でニュースリリースを出せる方が良い。</p>
事務局	<p>ネットニュースの活用については、これまで検討してこなかった手法なので、</p>

	<p>ぜひ広報担当と相談して前向きに取り組みたい。</p>
座長	<p>今はテレビの制作担当者や新聞記者もネットニュースを活用していると聞く。そういう意味ではニュースを拾いきれていない状況にある。こうした中でも記事にしてもらう必要があるので、ネットニュースの活用は非常に重要だと思う。</p>
委員	<p>地域経済振興事業について、米原市の補助金は手続きが容易で、支給されるまでの待ち時間も短いので、事業者からは非常に助かると聞いている。引き続きこうした事業に取り組んでもらいたい。</p>
座長	<p>補助金の手続きは、やはり大変なものか。</p>
委員	<p>例えば、国のコロナ禍による小規模事業者への補助金は申請してから採択結果が分かるまで約3か月かかる。3か月も経てば、季節が一つ進んでしまう。さらに、採択されなかった場合は修正版で申請し直すこととなり、さらに時間がかかってしまう。事業者のためにできる限り早く支給してほしいと思うので、米原市のように申請方法がわかりやすく、支給も早いのは非常にありがたい。</p>
座長	<p>私が気になったのは、コロナ禍でECサイトの開設ニーズが増えているが、この事業ではECサイト開設は補助対象となるのか。</p>
委員	<p>資料を見る限り、補助の対象にはならないと思われる。</p>
座長	<p>本来であれば、販売促進支援事業の対象に入れるべきではないか。いま、ECサイトを開設する事業者が増えており、補助のニーズも非常に高まっている。</p>
事務局	<p>令和3年度まではECサイト開設の補助をしていたがPR不足もあり、あまり活用されていない状況であった。改めて情報発信の重要性を感じている。</p>
座長	<p>事業者が国へ申請するにあたり、弁理士とネットショップの運営事業者が手を組んで申請書の作成を手助けしてくれると聞いた。</p>
委員	<p>基本的にIT補助金は、申請事業者と導入するベンダーで情報共有しながら申請書を作成して最終的に国の申請先へ送る手順になっている。</p>
座長	<p>私が他市で聞いた事例としては、弁理士とECサイト運営事業者が申請書作成の手助けをして、申請が認定された場合はその費用も計上できると聞いている。事業者の話を知っていると申請書の記入が苦手な人が多いようだし、ベンダーサ</p>

委員	<p>イドもそれほど得意ではないので、弁理士の力を借りると申請が大変スムーズで採択率も上がる傾向があるようなので、こうした面からも工夫できると良い。</p> <p>観光振興事業について、米原市だけでなく彦根市や長浜市との連携も広めてもらいたいとータルで地域の賑わいが創出できると良い。</p> <p>資料3で基本目標ごとに各事業を見ていると、基本目標4は差し迫った問題かつ解決しなければならない問題なので、ある程度予算が組まれているように見える。一方の基本目標1～3については今後、より良いまちにしていこうために取り組む事業として解釈できると思う。その中でも特に子育てに関わる予算規模が大きいが、一般財源を充てているのか。</p>
事務局	<p>国の補助金がある場合はそれを活用するが、そうでなければ一般財源を充てている。</p>
委員	<p>基本目標1や基本目標2の事業比と比べると、子育てに関わる費用との差が大きいため、国の財源をもう少しうまく活用してもらいたい。</p>
委員	<p>災害対策事業の一つに自主防災組織の強化と掲げられているが、私は消防団の幹部を担っていた経験もあり、現状として非常に難しい問題だと感じている。</p> <p>私の地域でも自主防災組織を作らないといけないという話をしているが、おそらく多くの地域では消防団が音頭を取って取り組んでいるのではないと思う。こうした現状で、今後どのように維持していくのが非常に心配である。</p> <p>PRの仕方次第なのか、各地域の人数構成によって改善できるのかは分からないが、これだけ高齢化が進む中で国や市が「地域のことは地域で解決してほしい」という考えなのは分かるが、10年後に今のような仕組みを維持できるのか、非常に不安である。資金面や人員面について、市はどんな将来像を描いているのか。国は、「地域の消防団で何とかしてほしい」というスタンスであるが、本当に継続できるものか。</p> <p>災害が起きた地域では、住民がもっと危機感を持っているが、この地域では大規模な災害が起こっていないこともあり、危機感が薄いことが一番の問題である。しかし、災害は今後必ずどこかで起こると思うので、その時に人力的な課題にどう対応するのか。私自身も今、消防団の一員として活動する中で非常に不安に感じている。</p>
事務局	<p>確かに消防団は人力的に定員を満たしていない状況が続いている。現状は一つの自治会に対し一つの消防団を構成することが多いものの、担い手不足で維持できない状況が生まれている。</p> <p>そこで、複数自治会で消防団を構成できないか等の見直しを行っているところ</p>

<p>座長</p>	<p>である。また、地域の防災リーダーという位置付けで防災士資格取得の支援をしたり、消防OBの協力を仰いだりしながら、担い手不足の改善につなげられるよう取り組んでいる。ただ、根本的な解決策はまだ見出せていない状況である。</p> <p>私は、東北震災の復興に長く関わってきたが、大きな災害に遭った経験から、地域が非常によくまとまっている。例えば、三陸沿岸の地域は過疎地であるものの、先日の大地震の時にも地域としてうまく機能していた。現地の知人に連絡を取ると既に地域住民の避難が完了し、電源等も準備されているので携帯電話も使えるし、大丈夫との返事であった。</p> <p>どういシステムができているのか詳細は分からないが、助け合いがしっかりできていて、学ぶべきことは多々あると感じている。助け合いがうまく機能する裏側には住民の危機感があるものだと思う。だからと言って、危機感を強要する必要はないが、何が起きるか分からない時代なので、災害を経験した地域から学ぶ機会が持てると良い。</p> <p>陸前高田市や大船渡市は人口が少ないものの、災害時に支援を必要とする人や高齢者がどこにいるのかを示すマップが整備されている。そのため、災害時にはそのマップを頼りに助け合いの機能が働いているようだ。</p>
<p>委員</p>	<p>災害派遣制度で県や市町村の職員等が被災地へ派遣され、復興の支援に従事し、帰庁した際に経験したことを共有する仕組みがあったと思う。米原市も被災地へ交流視察をしたり、双方で行き来したりするチャンネルを絶えず持ち合わせているはずであるし、行政職員だけでなく消防団や消防署なども含めて、一種の視察団のような形で交流できる関係性を築けると良い。</p>
<p>事務局</p>	<p>先日の東北で起きた大地震の際には、市職員が相馬市へ給水支援に出向いた。そこで経験したことや現地の様子について、市の幹部には報告したものの、地域や外部に向けては発信できていなかった。今後は、そうした情報も地域と共有していきたい。</p>
<p>座長</p>	<p>相馬市は大きな被害を受け断水したものの、復旧が非常に早かったと聞いている。これまでの経験が非常に活かされているものと思う。おそらく災害時のマニュアルが存在していると思うので、そうした内容を参考に米原市としてどうすれば良いか、改めて検討できると良い。</p> <p>日本は地震大国、津波大国として様々な災害が起きているので、災害から学んだ経験を未来への宝として生かせると良い。東京都が作成した災害マニュアルも非常にわかりやすいものなので参考にされてはどうか。</p> <p>ほかに御意見などいかがか。</p>

<p>委員一同</p> <p>座長</p>	<p>(意見なし)</p> <p>委員の皆さんから出された意見を全て実現することは難しいと思うが、中長期的に見て実現できることもあると思うので、改善に向けて取り組んでもらいたい。</p> <p>私自身、米原市との関わりも長くなり、米原ファンの一人として市内の様々な地域を訪れた。そこで経験したことをほかの地域で話すと「米原市はそんなに良いところだったのか」と驚かれることが多い。やはり、米原市はたくさんの魅力的なコンテンツを持っているので、そうした資産をきちんと生かしていけると良い。地の利の面からも大変便利で、非常に恵まれている。</p> <p>DMOの観点から言うと海外への視点が弱い。国内市場は今後縮む一方であるのだから、どのようにして海外にアプローチするかが重要である。空の便や船の便を活用してどうやって輸出していくか。</p> <p>こうした課題はコロナの1～2年後には多々議論されることになる。今、非常に日本の食材に注目が集まり、求められているので、この流れに乗り遅れてはいけないうし、ロシア産の品物（サーモンなど）が入らなくなったため、ビワマスも非常に有望である。信州や宮城のサーモンも今、非常に需要が高くパンク状態だと聞いている。また、農業の観点から言うと、小麦の高騰がこれだけ続くと今度は米の需要が高まると思う。</p> <p>様々なタイミングで市場の状況が変わるので、こうした流れを敏感に感じ取りながら、米原の力を様々な分野で発揮されたい。</p> <p>以上で、本日の議事を終了する。</p> <p><b>閉会</b></p>
<p>会議の公開・非公開の別</p>	<p>■公開      傍聴者：1人</p>
<p>会議録の開示・非開示の別</p>	<p>■開示</p>
<p>全部記録の有無</p>	<p>会議の全部記録    <input type="checkbox"/>有    <input checked="" type="checkbox"/>無 録音テープ記録    <input checked="" type="checkbox"/>有    <input type="checkbox"/>無</p>
<p>担      当      課</p>	<p>政策推進課（内線4231）</p>